

科目名	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 / 北野 由佳
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】							
<p>・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。</p> <p>・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。</p> <p>齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師</p> <p>笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師</p>							
【到達目標】							
①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。							

授業計画・内容	
1回目	付属治療院の使用方法について 付属鍼灸院の備品や衛生材料等の使用方法や施術前後の準備後片付けについて理解する。
2回目	患者に対する接遇(配慮)について 来院患者の誘導から施術中、施術後の接遇について理解することができる。
3回目	医療面接について 医療面接の目的と意義を理解し、マニュアルに沿って医療面接を行うことができる。
4回目	医療面接について 医療面接の目的と意義を理解し、臨機応変に患者に合わせた医療面接を行うことができる。
5回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
6回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
7回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
8回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
9回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
10回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
11回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
12回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
13回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
14回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
15回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 / 北野 由佳
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】							
<p>・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。</p> <p>・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。</p> <p>齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師</p> <p>笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師</p>							
【到達目標】							
①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。							

授業計画・内容	
16回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
17回目	病態把握 医療面接、徒手検査等を通じて病態把握を行うことができる。
18回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
19回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
20回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
21回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
22回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
23回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
24回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
25回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
26回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
27回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
28回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
29回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
30回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、その結果を基に指導教員の指示に従い行動することができる。
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 / 北野 由佳
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】 ・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。 ・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。 齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師
【到達目標】 ①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。 ②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。 ③問題抽出、問題解決力を身につける。 ④患者とのコミュニケーション力を身につける。 ⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
31回目	カンファレンス 担当した患者についてカンファレンスを行い、病態把握や施術方法などについて検討を行うことができる。
32回目	問診技法や徒手検査方法、鍼灸技術について他者評価を受け、自己研鑽を行うことができる。
33回目	問診技法や徒手検査方法、鍼灸技術について他者評価を受け、自己研鑽を行うことができる。
34回目	問診技法や徒手検査方法、鍼灸技術について他者評価を受け、自己研鑽を行うことができる。
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 / 北野 由佳
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分	(通年科目)後期
【授業の学習内容】							
<p>・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。</p> <p>・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また齊藤</p> <p>実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。</p> <p>資 格 はり師、きゅう師</p> <p>笹尾</p> <p>実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。</p> <p>資 格 はり師、きゅう師</p>							
【到達目標】							
①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。							

授業計画・内容	
35回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
36回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
37回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
38回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
39回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
40回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
41回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
42回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
43回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
44回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
45回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
46回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
47回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
48回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
49回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 北野 由佳
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分	(通年科目)後期
【授業の学習内容】							
<p>・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。</p> <p>・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。</p> <p>齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。</p> <p>資 格 はり師、きゅう師</p> <p>笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。</p> <p>資 格 はり師、きゅう師</p>							
【到達目標】							
①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。							

授業計画・内容	
50回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
51回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
52回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
53回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
54回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
55回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
56回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
57回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
58回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
59回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
60回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
61回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
62回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
63回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
64回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那/竹内 佳穂/ 阪本 尚美/王子 由佳里/前田 見太郎 / 北野 由佳
	Clinical EducationⅡ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分	(通年科目)後期
学科・コース	鍼灸科	曜日・時限					

【授業の学習内容】

・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。
・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

齊藤

実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

笹尾

実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。 ②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。 ③問題抽出、問題解決力を身につける。 ④患者とのコミュニケーション力を身につける。 ⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
65回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
66回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
67回目	はりきゅう施術の保険診療に関する歴史的背景について説明できる
68回目	はりきゅう施術の保険診療について説明できる
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学
日本医事新報社 人体の正常構造と機能
滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK
文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ